

令和7年度 第2回嘉麻市文化財保護審議会議事録（要点筆記）

1. 審議会等の名称「令和7年度 第2回 嘉麻市文化財保護審議会」
2. 開催日時：令和8年3月4日（水） 14時00分～15時40分
3. 開催場所：嘉麻市役所 碓井総合庁舎 会議室4
4. 公開又は非公開の別：公開
5. 出席者
委 員：嶋田光一（会長）、青山英子、石瀧豊美、小林知美、佐々木隆良、竹川克幸
執行機関：教育長：伊東新治、生涯学習課長：末永康洋、
生涯学習課長補佐兼文化推進係長：松浦宇哲、文化推進係：尾方禎莉
6. 傍聴人数：0人
7. 次第
開会のことば
（1）教育委員会あいさつ
（2）会長あいさつ
（3）議事・報告
①令和7年度事業実施報告について
②令和8年度事業計画について（資料2）
（4）事務連絡等
閉会のことば

【 会 議 録 】

- （1）教育委員会あいさつ

教育長によるあいさつ

- （2）会長あいさつ

会長によるあいさつ

- （3）議事・報告

①令和7年度事業実施報告について（資料1）

資料1に基づき、事務局より報告を行った。以下、質疑応答。

委 員 大隈城の国指定申請についての詳細を教えてください。

事務局 令和5年度に頂上部分が県史跡に指定された。その際、県の文化財専門委員から、指定範囲の近世城郭跡のみならず、中世山城として機能していた時代の遺構残存状況も良好で国史跡としての価値を有するため、申請を打診されたという経緯がある。また、市の歴史文化観光まちづくりプロジェクトを展開するうえで中核の資源になるため、令和9年度から国指定に向けての取り組みを実施する予定である。

委 員 沖出古墳の補修工事は完了したのか。また、石の色が変化したように見えるが。

事務局 工事は全工程完了し、竣工検査を待つのみである。工事の過程で石を組み直す際、裏返しして汚れのない面を表にしているため、変色したように見えるが、時間の経過とともに馴

染んでいく見込みである。

委員 古文書講座をとおして嘉麻市及び嘉麻市民との距離の近さを改めて実感した。歴史的にも朝倉市との繋がりも深く、今後も連携を拡大していくことに期待を持てる。

事務局 文化庁も「地域連携」をもって文化財の活用を図る方針が示されている。文化財面においても観光面においても連携を強化していきたい。

委員 嘉麻市で連携協定の計画等はあるか。

事務局 現時点では計画はない。大阪府等の他自治体では文化財保護事業の広域連携が進められており、将来的に検討していく必要があると考えている。

委員 歴史的な縁から高鍋町、菊池市など嘉麻市と繋がりたい自治体は多い。協定までいなくても交流を推奨したい。

委員 市と大学とが連携して実施した松岡家資料調査では、文化財専攻でない学生も調査に加わっており、学生間の交流の場としても有益であった。このようなフィールドワークは次世代を育成する契機にもなり得るので、今後も継続できたら良い。専門職の確保が難しい中、ボランティアや地域学芸員のような人材を育成できる場が必要だと思う。

委員 松岡家資料調査において確認された書画の文化的価値はどうか。

委員 斎藤秋圃については本物の可能性が高いと思う。狩野探幽については「探幽筆」との記載を確認したままで、真偽は不明である。当地域の幕末・明治時代の旧家には、このような書画が豊富にあり、ひとまず真偽を追及するというよりも、都文化を共有する層が当地域に一定数存在したという前向きな評価としている。

委員 ほかに梅ヶ谷酒造の収蔵資料について、調査歴はあるのか。

事務局 自前で資料整理を行っていて資料目録を作成しているが、未整理の資料もあるため、今後、連携事業も含めて調査対象として調整中である。

委員 アクションプラン目標値達成状況の中で、市内の学校による資料館の見学数が目標値を下回っている理由を教えてください。

事務局 学校のカリキュラムが早くに決定することや担任の意向などの影響も大きい。受け身だけでは、利用数が伸びない面がある。また、交通・移動手段が乏しいことも大きな要因で、校長会でも課題として挙がっている。

委員 松岡家資料調査の際も、学生の所感として交通手段が課題に挙げられていた。常時ではなくイベントの際だけでもループバスを運行させる等、工夫、対策が必要である。

子ども時代の学習の記憶が、その後の成長に大きく作用するので、幼い頃から郷土の歴史や文化、自然に触れておくことは重要。嘉麻市は教育の場としてのポテンシャルは高いと思う。

委員 以前、平和学習で出向いた学校の児童生徒の感想文を、平和祈念館の活用されていなかったスペース（回廊）に展示したことがある。学校側の来館が難しいのであれば、そのような手段を使うことで、子どもたちの平和学習の成果を形にすることができ、かつ資料として展示室の有効活用にもなる。

②令和8年度事業計画について（資料2）

資料2に基づき、事務局より報告を行った。以下、質疑応答。

委員 ふるさと交流館運営に関して、増減理由等が斜線になっているのはなぜか。また、一般利用は停止しているのか。

事務局 金額の大幅な増減がないため、特に理由は明記していない。一般公開は平成 31 年度から老朽化により停止しているが、埋蔵文化財の整理作業や保管の場として利用している。

委員 昭和展に関して活用事業の中に入っているのか。また、企画は固まっているのか。

事務局 歴史民俗教育普及事業として、広報関係の予算を計上している。国・県等の補助金はない。内容については、大枠は固まっているが、詳細はこれからである。展示会に合わせて回想法を取り入れたまち歩きイベントや民間事業者との連携も考えている。

委員 反響はかなりあると思うが、「昭和」の焦点化が難しい。戦前・戦後のどの時期に焦点をあてるのか、歴史・民俗の各分野など何をもってノスタルジーとするのか、どう見せるか精査が必要。また、嘉麻市の場合は、周辺地域と比較して炭鉱一色ではないので、その違いを展示に活かす工夫も必要かと思う。

委員 来場者が筑豊地域を周遊できるように飯塚市など近隣自治体との地域連携企画が望まれる。各自治体限りの展示だけでは勿体ない企画である。

(4) 事務連絡等

事務局から下記のイベントについて案内を行った。

- ・九州国立博物館開館 20 周年事業「山野の楽」実演：3 月 8 日開催
- ・&KAMA マルシェ（嘉麻市歴史・文化・観光のまちづくり推進イベント）：3 月 15 日開催
- ・かまさくらウォーク：3 月 22 日開催

上記に相違ないことを確認する。

令和 8 年 3 月 9 日

会議録確認者：会長 鳴田 光一